



2026年3月19日

各位

会社名 山洋電気株式会社  
代表者名 代表取締役会長 山本 茂生  
(コード番号 6516 東証プライム市場)  
問合せ先 常務執行役員管理部門統括 岩山 昌樹  
TEL. (03) 5927-1020

## 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組みについて（アップデート）

当社は、本日開催の取締役会において、2025年5月21日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み」に関しまして、あらためて現状分析・評価をおこない、方針と取り組みをアップデートいたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 株主還元方針の見直し

当社は、持続的な企業価値の向上に向けて、安定した経営基盤の確保および将来の成長に向けた投資を進めるとともに、株主のみなさまへの利益還元も重視しております。

これらの観点を踏まえ、今後の資本効率の向上および株主還元のさらなる充実を図る目的から、株主還元方針を見直し、**配当性向50%**を目安とした配当を実施いたします。これに加え、財務状況、資本効率および市場環境等を総合的に勘案し、機動的な自己株式の取得などで株主還元の一層の充実を図ってまいります。

詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組みについて（アップデート）」をご参照下さい。

	従来	第10次中期経営計画
ROE目標	ROE10%以上を継続して達成する	ROE10%以上を継続して達成する
株主還元方針	総還元性向35%目安	総還元性向 <b>50%</b> 以上を目安
配当金	配当性向30%目安	配当性向 <b>50%</b> 目安
自己株買い	機動的に実施	機動的に実施

#### 2. 今後の見通し

現在、当社グループでは「第10次中期経営計画」を策定中であり、具体的な計画内容につきましては2026年5月をめどに開示する予定です。

以上

山洋電気株式会社

資本コストや株価を意識した  
経営の実現に向けた取り組みについて  
(アップデート)

東証プライム市場：6516

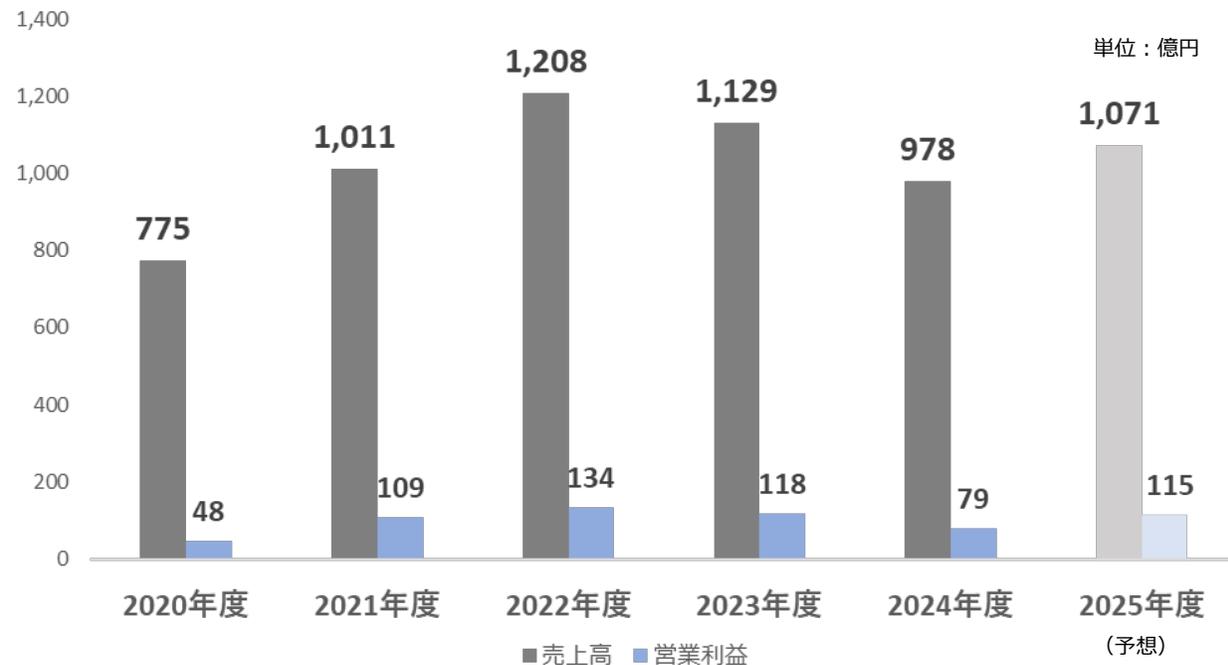
2026年3月19日

SANYO DENKI

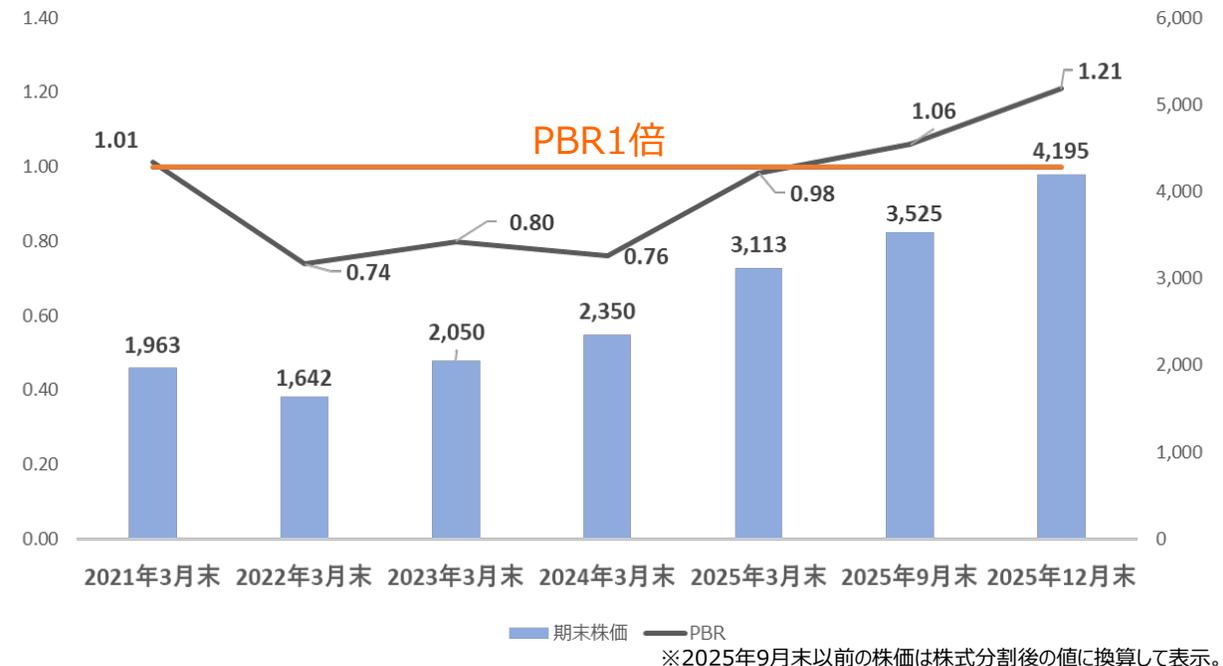
- 1. 企業価値向上に向けた現状分析**
  - ・ 業績とPBRの推移
  - ・ ROEと株主資本コスト
- 2. 企業価値向上に向けた今後の取り組み**
  - ・ 第10次中期経営計画
  - ・ 成長戦略
  - ・ 株主還元の方針
  - ・ 株主・投資家との対話

- IT・通信、半導体、自動化投資等の市場拡大に伴い、業績は堅調に推移。
- AI関連市場を中心とした活発な需要により、グローバル市場での成長が継続。
- PBRは前期以前は0.8~1.0倍前後で推移も、2025年12月末には1.2倍超に上昇。
- 1:3の株式分割（2025年10月1日効力発生）を実施し、株式流動性を向上。

### 業績の推移

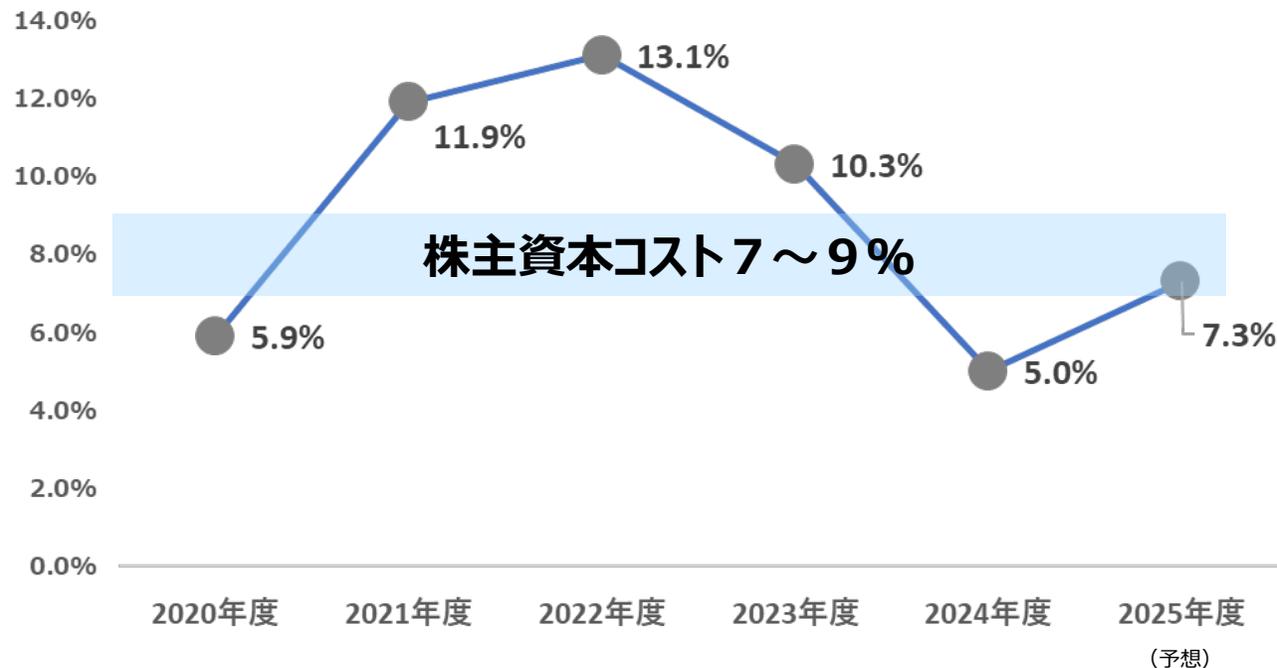


### PBR・株価の推移

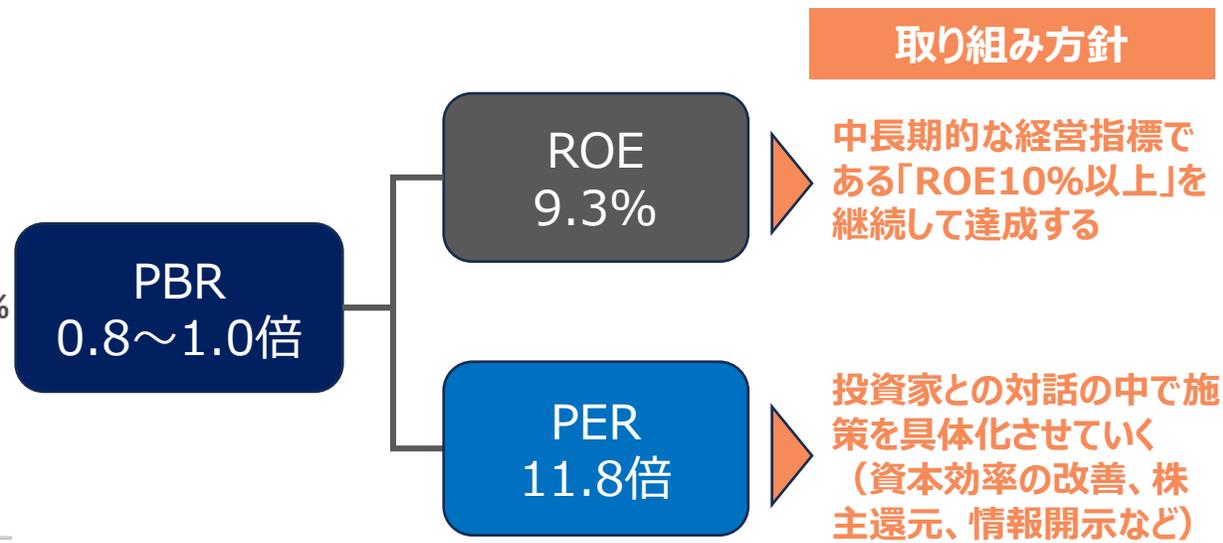


- 経営指標は「ROE10%以上」、株主資本コストは7~9%を想定。
- 直近5年間のROE平均は9.3%、株主資本コストを上回る水準で推移。
- 「稼ぐ力（ROE）×投資家期待（PER）」の向上に取り組む
  - ✓ ROE10%以上を維持する高付加価値ビジネス
  - ✓ 株主・投資家からの期待向上

ROEと株主資本コスト



PBR分析



取り組み方針

中長期的な経営指標である「ROE10%以上」を継続して達成する

投資家との対話の中で施策を具体化させていく  
(資本効率の改善、株主還元、情報開示など)

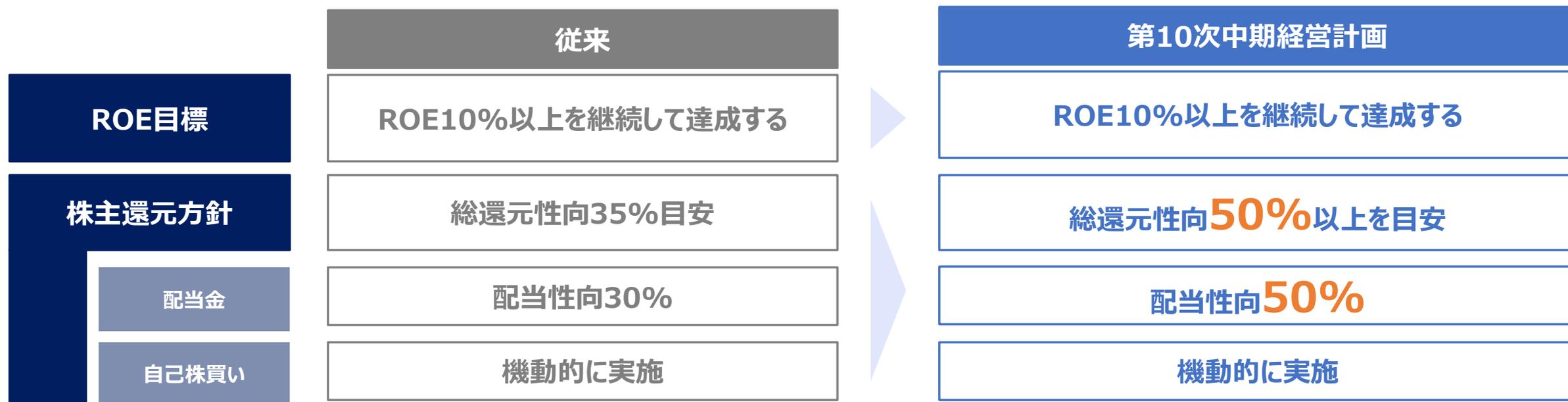
※PBR・ROE・PERは直近5年平均

### 第10次中期経営計画 概要

期間：2026年4月～2031年3月（5年間）

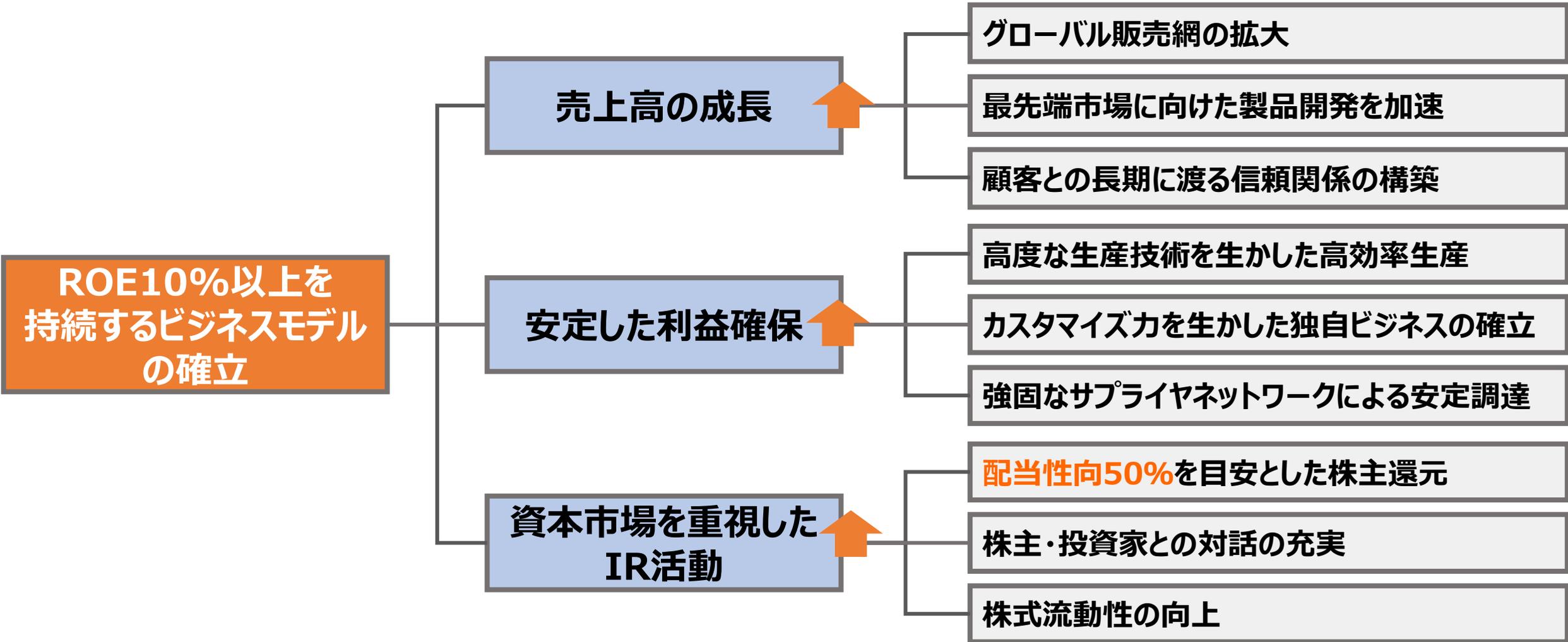
テーマ：「時間を力に」

- ✓ 「山洋電気は早い」と評価される企業体質にする。
- ✓ 時間を、格段に、画期的に短縮する。
- ✓ 時間を競争力にして、新しいもの、新しいこと、新しいやりかたを創り出す。
- ✓ 時間を軸にナンバーワンの製品開発、納期、業務品質にする。

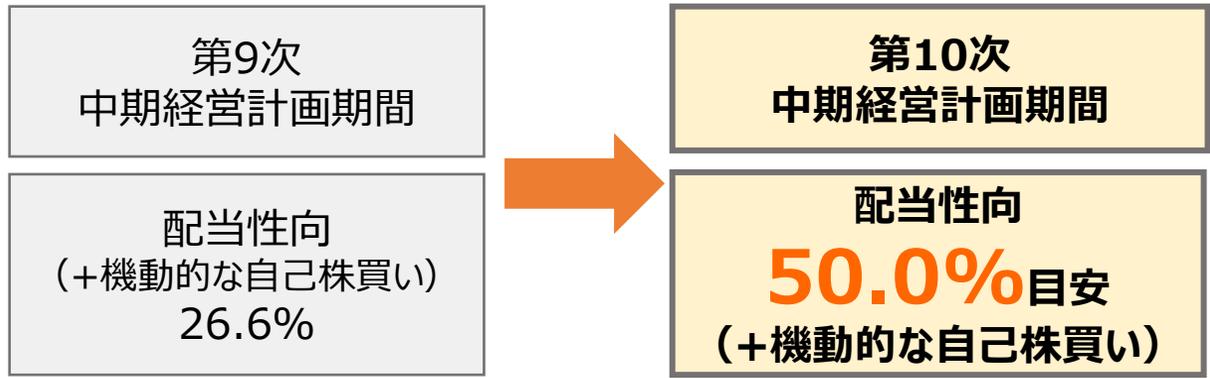
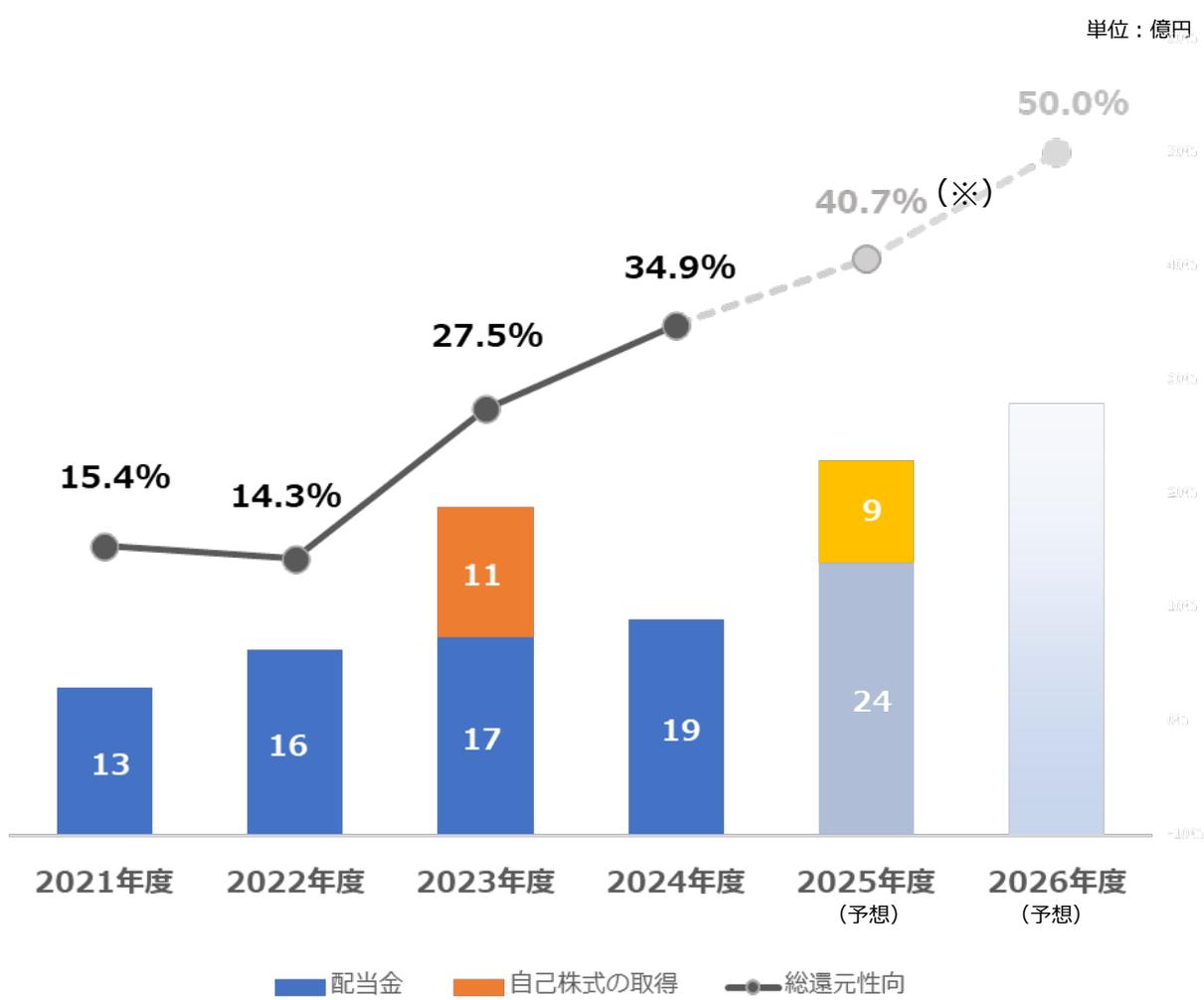


**ROE目標は継続、株主還元方針を再定義**

### 「売上高の成長×安定した利益確保×資本市場を重視したIR活動」を推進



## 配当性向の目安を50%に引き上げ、株主還元を充実



- 株主還元は配当による還元を基本とする。
- 配当性向50%目安(+機動的な自己株買い)により、株主還元を充実
- 次なるビジネス展開に向けた成長投資（設備投資・研究開発投資・人的資本投資）も積極的に実行
- 事業基盤の安定のための定常投資は継続して実施

**株主還元の充実と  
持続的成長を両輪で実現**

※2025年5月8日に実施した101,000株（約9.7億円）の自己株式取得を反映

## 2. 企業価値向上に向けた今後の取り組み 株主・投資家との対話

### 株主・投資家との対話機会を増やし、山洋電気を正しく理解いただく

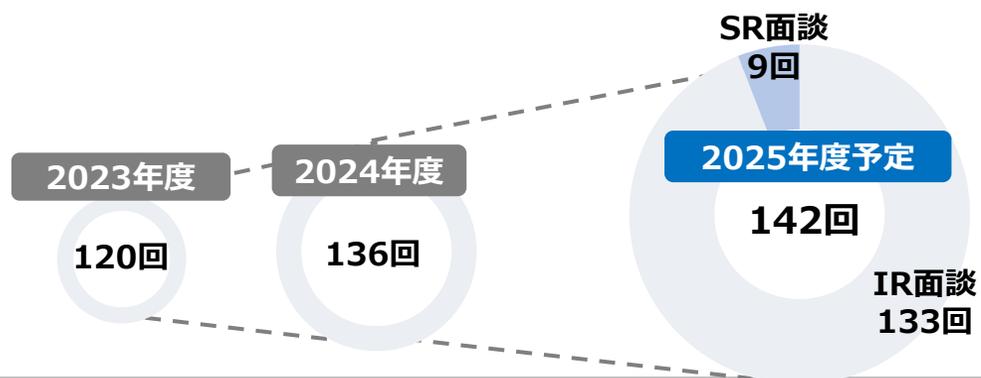
#### 投資家向けイベントの拡大

	2023年度	2024年度	2025年度 予定
決算説明会	2回	2回	2回
スモールミーティング	0回	1回	4回
工場見学	1回	1回	1回

#### スモールミーティングの実施

開催時期	内容	人数	登壇者
2025年8月	・第1四半期決算概要 ・2025年度計画	14名	取締役専務執行役員 (財務・営業部門)、 IR部門
2026年1月	・第2四半期決算概要 ・AI関連市場の動向	42名	常務執行役員(事業部 門)、IR部門
2026年2月	・第3四半期決算概要 ・欧州市場の動向	16名	取締役専務執行役員 (営業部門)、IR部門

#### 個別面談の回数増



#### 新たな対話機会の創出

- 株主懇談会
- 工場見学会
- バーチャルコミュニティ



株主・投資家からの要望に対しては以下の活動を実行中、引き続き相互理解の深耕をはかる。

区分	株主・投資家からのご要望	当社の活動
株主還元	・株主還元方針を明確にしてほしい。	2025年5月に「配当性向30%」を方針として開示した。第10次中計では「配当性向50%」へ引き上げる。
資本政策	・自己資本比率が過剰。資本効率を改善してほしい。	<b>2026年5月公表の 「第10次中期経営計画」にて説明を予定</b>
中期経営計画	・中期経営計画を数値で開示してほしい。 ・キャピタルアロケーションを開示してほしい。	
情報開示	・他社との差別化要因を公開資料の中で明確にしてほしい。	
コミュニケーション	・経営層との面談機会を増やしてほしい。 ・工場見学の機会を増やしてほしい。	経営層との面談数は、スモールミーティングの開催やテーマに応じた役員の出席による個別面談により増加している。また、テーマが生産活動に関する場合には、工場見学にも積極的にご案内している。
株式流動性	投資単位を引き下げてほしい。	2025年10月1日を効力発生日とし、1：3の株式分割を実施した。